

援助評価の国際行政

—DAC 評価会合とガイダンス—

三上 真嗣

概要

援助評価の諸基準は国際的に形成、決定され、各ドナー国内で実施されている。日本の ODA 評価も国際的な動向に影響を受けている。そこで国内行政と国際行政をつなぐ要素のひとつに、評価とそれに関する文書群があると考え、それらが国内行政に与える影響を考察する準備として、本稿では国際的なガイダンス形成の代表的な場である OECD DAC の下部機構「DAC 評価会合」の歴史と活動を整理する。そのために、過去に公表されてきた重要刊行物や評価報告書、ガイダンス、マニュアルなどを会合の議事録も援用して整理し、評価文書の産出過程を追跡する。

1960 年代に開催された一連の援助評価セミナーに由来する DAC 評価会合は、合同評価や統合評価を促進してきた。合同評価とは、各国や各組織が共同で実施する評価である。評価をめぐるグループ化が進み、近年では評価連合 (evaluation coalition) の形成が進んでいる。統合評価とは、特定の切り口で横串を通すことで、複数の評価報告書から教訓を抽出する評価である。たとえば、環境やジェンダーについて他の DAC 下部機構と連携した評価が行われている。その実態は、各国の評価報告書を統合して教訓を抽出し、そこからガイダンスを作り上げてきた過程であった。ガイダンスは規範としての強制力を持たないものの、各国や各組織の ODA 評価や援助評価のあり方に大きな影響を及ぼしてきた。国内行政と国際行政の結節点には、評価が存在するのである。

1. 援助評価の国際行政

国内行政と国際行政をつなぐ要素のひとつに評価がある。評価の諸基準は、国際的な議論の影響も受けるからである。それは政府開発援助 (Official Development Assistance 以下、ODA) における ODA 評価で顕著である。外務省による評価管理や独立行政法人の統制といった国内行政的な諸課題の考察のためにも、国際的な影響のメカニズムを把握する必要がある。

その手がかりは評価に関する文書群にある。ODA 評価の評価政策 (evaluation policy) や評価ガイドライン、評価マニュアルは、援助評価 (aid evaluation) の国際的なガイダンスや評価基準にたびたび言及する。たとえば、日本における ODA 評価ガイドラインは、経済協力開発機構 (Organisation for Economic Cooperation and Development 以下、OECD) やその下部組織である開発援助委員会 (Development Assistance Committee 以下、DAC)、あるいは世界銀行などの国際機構や国際的な集団が公表する各種のレポートやガイダンスに言及している。日本だけでなく、デンマーク国際開発援助 (Danish International Development Assistance 以下、DANIDA) の評価政策も OECD の資料を引用している (URL1:2)。

ODA 評価や援助評価は、国際行政の研究対象でもある。日本における国際行政の研究は、蠟山政道による 1928 年の『国際政治と国際行政』にまで遡る (蠟山 1928)。城山英明は、C. Hood が提示する行政活動における基本的資源すなわち、財政的資源、人的資源、オーソリティー、情報を参照し、そのどれかに国際性がある場合の行政活動が国際行政であると述べる

(城山 1997: 1)。そして、「国境を越えた諸活動を確保し相互依存に伴う諸課題を解決するための、さまざまな組織の試みの総体を国際行政と呼ぶことができる」と定義する(城山 2013: 3)。これに従えば、開発援助や国際協力に関する評価の行政活動もこの国際行政に含まれるだろう。

国際行政における評価はこれまでも研究されてきた。1993年の『ODAの評価システム—理論と国際比較』では、行政学者と国際政治学者が共同で評価システムに関する研究を行った(行政管理研究センター調査研究部編 1993)。その第6章では、OECDに勤務していた増島健がDACの評価システムを執筆している。城山英明は、米国国際開発庁(United States Agency for International Development 以下、USAID)や世界銀行の援助評価を説明している(城山 2007)。また、福田耕治は、欧州委員会における環境影響評価の検討を行っている(福田 1992: 389)。そして、福田耕治と坂根徹は、欧州委員会と国連システムの国際行政を議論する際、随所で評価に言及する(福田・坂根 2020)。

援助評価の国際性は、評価対象である開発援助それ自体が国際的な活動である点に留まらない。たとえば、外務省や独立行政法人国際協力機構(Japan International Cooperation Agency 以下、JICA)あるいは、かつての国際協力銀行(Japan Bank for International Cooperation 以下、JBIC)といった組織は、日常的に援助評価をめぐる国際的な会合に参加している。そして、自国に情報を持ち帰ることで国内行政におけるODA評価の制度運用に影響を及ぼす。なお、彼らのこの種の役割は外交官だけではなく行政官でもある点が重要である。

本稿では、この国内行政と国際行政の結節点に、冒頭に述べたような各種の文書群が重要な役割を担っていると考える。それらが国内行政に与える影響を考察する準備として、国際的なガイダンス形成の代表的な場であるOECD DACの下部機構「DAC評価会合」の歴史と活動を整理する。そのために、過去に公表されてきた重要刊行物や評価報告書、ガイダンス、マニュアルなどを会合の議事録も採用して整理し、評価文書の産出過程を追跡する。

ここで用語の整理を行いたい。援助評価や

開発評価(development evaluation)という語は、国や時代、組織によって呼称が異なっているが実務上、ほとんど同じ意味で用いられている。本稿では「援助評価」の語を使う。他方、ODA評価の語は援助評価の具体的な制度の一つを指す。日本の評価制度を指す場合には「ODA評価」を使う。また、DACの評価会合の具体的な名称は変化してきた。増島の表記に従い「DAC評価会合」を使って総称し、個別に示す場合は各々の名称を用いる。

2. DAC評価会合の活動

2.1 組織の沿革

DAC評価会合は、どのような活動を行ってきたのか。まずは、DACの成立から整理する必要がある。その前身である開発援助グループ(Development Assistance Group 以下、DAG)が設立されたのは、1960年1月である。翌年には、このDAGを基礎としてDACが創設された。このとき、日本も原加盟国となる。その組織目的は、途上国に対する援助量の増大と援助の有効性の向上にある(URL2: 7)。

DACでは、レベル別の会合(meeting)が開催される(URL3)。閣僚級のハイレベル会合(High Level Meeting)は、1年から2年に1回ほどのペースで開催される。主に、コミュニケ(communiqué)の採択を行う場である。日本からの出席者には、たとえば外務大臣や外務省国際協力局審議官がいる。局長・次長級には、シニアレベル会合(Senior Level Meeting)があり、1年に1回実施される。定例会合にはDAC会合があり、年間計画の策定やピア・レビューの実施などを行う場となっている。さらに具体的なテーマや専門領域別の議論を行うために、複数の下部機構がある。DAC評価会合もその一つである。

DACが創設された1960年代には、DAC評価会合の萌芽が見られる。それは、評価者同士の非公式な接触とセミナーの開催である。まず、1966年にドイツのベルリン、次に1970年にオランダのワッセナーで開催され、1972年にはDAC初の刊行物が公開された(URL4: 7)。そのフォローアップは、翌年にアムステルダムで

開催される。1975年には、その成果が取りまとめられた。このとき、援助評価をめぐる基本的な方向付けがされたと考えられる。ここで扱われた議論の多くは、2020年代にまで続いているからである（URL5）。同年には、デンマークのコペンハーゲンでもセミナーが開催された（URL4：7）。

そうしたセミナーに続いて、1979年と1980年のハイレベル会合では援助の有効性（aid effectiveness）が議論された（URL4：7）。これに対する評価の有効性を明らかにするため、1980年の会合では評価コレスポンデント・グループ（DAC Sub-Group of Correspondents on Aid Evaluation）が次の4つの目的のもと創設された（URL4：6-7）。すなわち、①援助の有効性に関する既存の評価結果の確立（establish）とその報告、②政策形成に対するフィードバックにおける論点の検討、③広報を支援しうる評価方法に関する報告、④発展途上国における評価業務をドナーが支援できるような方法の検討、である（URL4：7）。

1982年のハイレベル会合では、とくに①を優先することを決定した（URL6：6）。そして、この会合で援助評価専門家会合（Expert Group on Aid Evaluation）の創設が合意された。その際に与えられたマンデート（mandate、任務や権限の意味）は次の4つである（URL6：7）。第1に、交流の強化である。すなわち、各国の評価ユニットと、必要に応じては多国間の評価

ユニットとの間で、情報や経験、協力の交流を強化することである。その目的は、個々のメンバーの評価活動を改善し、手法と概念に関するフレームワークの標準化を促進し、重要な評価研究を計画する際にドナー間で上手に調整が行われるような基礎を築くことである。第2に、プロジェクトやプログラムを計画、デザインする際のオペレーショナルな教訓を評価研究から抽出することである。そして、それによって援助の有効性の向上に貢献することである。第3に、合同（joint）方式や協調（co-ordinated）によって実施される評価の実現可能性を確かめることである。ここでは、農業などの代表的なセクターや特定の被援助国について実施される合同評価が想定されている。第4に、発展途上国の評価キャパシティの発展を促進、支援する方法を見つけることである。

この1982年マンデートがDAC評価会合の基礎となる。DAC下部機構のレビューを受けて、1998年には援助評価専門家会合は援助評価作業部会（Working Party on Aid Evaluation）に改称された。ただし、名称変更に残ってマンデートは受け継がれた。2003年には再び、開発評価ネットワーク（Network on Development Evaluation 以下、EvalNet）に改称されたが、マンデートは同様に継承された。しかし、2012年に修正が行われ、次の3つに整理された（URL6：8）。すなわち、①評価におけるベスト・プラクティスに関する知識の提唱

図表1 DAC評価会合の沿革

時期	出来事
1966年	セミナー開催、於ベルリン（ドイツ）
1970年	セミナー開催、於ワッセナー（オランダ）
1973年	フォローアップ・セミナー開催、於アムステルダム（オランダ）
1975年	セミナー開催、於コペンハーゲン（デンマーク）
1979年	DACハイレベル会合における援助の有効性（aid effectiveness）の議論
1980年	評価コレスポンデント・グループ（Sub-Group of Correspondents on Aid Evaluation）の創設
1982年	援助評価専門家会合（Expert Group on Aid Evaluation）の創設 1982年マンデートの決定
1998年	援助評価作業部会（Working Party on Aid Evaluation）に改称
2003年	開発評価ネットワーク（Network on Development Evaluation）に改称
2012年	マンデートの修正

（出典：URL4；URL6より三上作成。）

(advocate) と共有、②重要な開発トピックにおける評価エビデンスの統合 (synthesise)、③協働 (collaboration) の増進と、評価キャパシティの発展の促進と支援とを目的とした発展途上国パートナーとの活動である。

2.2 評価の統合：統合評価の実施

DAC 評価会合は、統合評価 (synthesise evaluation) を通じて各国の評価結果が産み出す情報や教訓を統合してきた。DAC 評価会合が実施した統合評価には、次の3つのアプローチがあると考えられている (URL6: 11-2)。第1に、特定のセクターやテーマに注目する統合評価である。オランダは保険医療に関する77の評価結果を統合した。レポートが公表されたのは1989年である。

第2に、特定のトピックに注目する統合評価である。1985年にデンマークの提案を受けて各国で実施された。その際に選ばれたトピックは、持続可能性 (sustainability)、女性に対するインパクト (impact on women)、環境に対するインパクト (impact on the environment) である (URL4: 16)。この選択は政治的であると考えられたため、各国は自発的に試行的な評価を進めることになった。持続可能性はアメリカ、女性に対するインパクトはカナダ、環境に対するインパクトは事務局がそれぞれ担当した。持続可能性に対するレポートは「プログラム・マネージャーのためのサマリー・レファレンス」として受け入れられた (URL4: 16)。持続可能性の知見は、その後の“DAC Principles for Project Appraisal”にも影響を与えた (URL6)。

第3に、他の下部機構と協働で行う統合評価である。具体的には、参加型の開発 (participatory development) およびグッド・ガバナンス (good governance) のアドホックな作業部会と共に実施した統合評価であり、1997年に報告書が公表された (URL7)。その後、ドイツと国連開発計画 (United Nations Development Programme 以下、UNDP) によって、さらに対象を広げた評価が進められる。その成果は2004年に公表された (URL8)。なお、DACにおけるグッド・ガバナンスの展開は、Masujima (2004) が参考になる。また、環境やジェンダーといった分野でも統合評価が実施された。たとえば、オース

トラリアとオランダが共に実施した統合評価では、ジェンダー平等作業部会 (Working Party on Gender Equality) と協働して、評価の問題点を洗い出した (URL9)。これが評価の質に関する論議の契機となる (URL6: 12)。

2.3 評価の連携：合同評価の促進

複数の国や組織と共同で行う合同評価の促進は、DAC 評価会合の重要な役割のひとつであり、1980年代に盛んに議論された。ハイレベル会合からの要請を受けた議論が1989年に進められたのだが、合同評価をDACが公式に行う必要はないと結論づけられた。だが、1990年代には合同評価が実施されてきた。その代表例は次の3つである。第1に、カナダ、オランダ、ノルウェーによる国連世界食糧計画 (United Nations World Food Programme 以下、WFP) の合同評価である (URL10)。第2に、ルワンダの紛争とジェノサイドに対する国際対応への合同評価にデンマークが着手した (URL11)。第3に、欧州連合の食糧援助を対象とした合同評価がイギリスによって取りまとめられた (URL12)。

2000年代になって以降、合同評価は増加する (URL13; URL14; URL15; URL16; URL17)。日本からも外務省やJICAがこれらの一部に参加している。この時期、人道的支援に対する合同評価が増えた。たとえば、国内避難民の評価 (URL18) やアフガニスタンの評価 (URL19)、デンマーク主導の津波評価連合 (Tsunami Evaluation Coalition 以下、TEC) による統合評価 (URL20) である。代表的な合同評価を表に整理した (図表2)。

2.4 評価の標準化：ガイダンスの作成

統合評価や合同評価を通じて得られた知見や教訓をガイダンスとして整理することで、DAC 評価会合は援助評価の標準化を進めてきた。援助評価専門家会合の最初の会合は、1983年3月に開催された。1984年には、“Operational Lessons of Evaluation” がイギリス、EC、オランダ、アメリカによって構成される作業部会の指示のもと事務局によって作成された。そこでは、DACメンバーの援助は同様の失敗を繰り返し

図表 2 代表的な合同評価の報告書

公表年	文書名	主導した国、組織
1994年	“Evaluation of the World Food Programme: Final Report”	CIDA, the Netherlands, Norad
1996年	“The International Response to Conflict and Genocide: Lessons from the Rwanda Experience, Synthesis Report”	DANIDA
1996年	“Joint Evaluation of European Union Programme Food Aid”	the Netherlands, ODI
2000年	“Evaluation of European Aid Managed by the Commission, 1995-1999, Room Document No.3.”	France
2000年	“Evaluation Ghana Joint Evaluation of the Road Sub-Sector Programme 1996-2000”	DANIDA
2003年	<i>Toward Country-led Development - A Multi-Partner Evaluation of the Comprehensive Development Framework: Synthesis Report.</i>	IBRD
2003年	<i>Local Solutions to Global Challenges: Towards Effective Partnership in Basic Education Joint Evaluation of External Support to Basic Education in Developing Countries, Final Report.</i>	the Netherlands
2005年	“A Joint Evaluation: Humanitarian and Reconstruction Assistance to Afghanistan, 2001-05”	DANIDA
2005年	“Joint Evaluation of General Budget Support 1994-2004: Final Inception Report”	DFID
2005年	<i>Support to Internally Displaced Persons: Learning from Evaluation.</i>	DANIDA
2006年	“Joint Evaluation of the International Response to the Indian Ocean Tsunami: Synthesis Report”	DANIDA
2007年	<i>Evaluating Coordination, Complementarity and Coherence in EU Development Policy: A Synthesis.</i>	EU, Sweden, the Netherlands
2011年	<i>The Evaluation of the Paris Declaration, Final Report.</i>	DANIDA

(出典：URL6：17-20 を実際の各資料をもとに修正して三上作成。)

ていると指摘された (URL6：11)。DAC は評価の原則を整備する必要性を認識し、1988年の“Principles for Project Appraisal”の作成に向けて動き始めることになった。

なぜ DAC 評価会合は、ガイドラインやハンドブックではなくガイダンスを作成するのか。第2回の会合においてイギリスは、評価の手法や手続きに関するハンドブックの作成を提唱した。しかし、事務局からマンデートの範囲にない業務であると指摘を受け、また評価の規範を定めることに抵抗したメンバーがいたため、評価手法や手続きに関する既存の情報を集めることになった (URL6：32)。この情報の集まりがガイダンスである。そして、DAC の評価会合は、特定のガイドラインを作成しないことを決定し、強制力が弱いガイダンスの作成に焦点を当て始めたのである (URL6：32)。これ以降、ガイダンスの作成を通じて、各国の援助評価の方針を方向付けるようになる。

評価の原則や規範、基準、ガイダンスに関する最初の文書は、1985年に承認、1986年に出版された (OECD 1986)。この頃では、メン

バー間で合意が取れない部分も多く、たとえば専門用語の定義をめぐる些細な違い (英語とオランダ語の違いなど) をめぐり、議論が繰り返されていた (OECD 1986)。強制力のある規範を定めなかったものの、これが標準化とガイダンス作成の始点となる。なお、1992年には、基準や教訓を整理、統合した文書が公表された (URL21) (図表3)。

1990年代には、評価の基準や原則の統一が進められた。1991年には、DAC 開発援助の評価原則が作成され、評価の目的として妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性 (持続可能性) が示された (URL22：5)。日本を含む各国の ODA 評価やその他の評価制度は、この原則を参考にようになる。

1999年9月には用語集の見直しが DAC 評価会合で始まり、2000年には取りまとめが行われた (URL23：3)。その背景には、1999年当時の結果重視マネジメント (Results Based Management) の議論があった (URL24)。その集大成は、2002年に公表された (URL25)。

2000年代は、評価の質 (evaluation quality)

図表 3 DAC Principles for Effective Aid に統合された文書群

公表年	文書名
1986 年	Guiding Principles for Aid Co-ordination with Developing Countries
1986 年	Good Procurement Practices for Official Development Assistance
1988 年	Principles for Project Appraisal
1989 年	Guiding Principles on Women in Development
1991 年	Principles for New Orientations in Technical Co-operation
1991 年	Principles for Programme Assistance
1991 年	Good Practices for Environmental Impact Assessment of Development Projects
1991 年	Principles of Evaluation of Development Assistance
1991 年	Principles for Aid Evaluation
1992 年	New Measures in the Field of Tied Aid

(出典：URL21：8 より三上作成。)

図表 4 代表的なガイダンスの文書（1970 年代から 1990 年代）

公表年	文書名
1972 年	<i>Evaluating Development Assistance.</i>
1975 年	“AID Evaluation: The Experience of Members of the Development Assistance Committee and of International Organisations”
1984 年	“Operational Lessons of Evaluation”
1986 年	<i>Methods and Procedures in Aid Evaluation: A Compendium of Donor Practice and Experience.</i>
1988 年	“DAC Principles for Project Appraisal”
1991 年	<i>DAC Principles for Evaluation of Development Assistance.</i>
1992 年	<i>Development Assistance Manual, DAC Principles for Effective Aid.</i>
1993 年	“A History of the DAC Expert on Aid Evaluation”
1996 年	“Evaluation Capacity Building: Donor Support and Experiences”
1996 年	DAC, “Shaping the 21st Century: The Contribution of Development Co-operation”
1997 年	“Evaluation of Programs Promoting Participatory Development and Good Governance: Synthesis Report”
1999 年	“Guidance for Evaluating Humanitarian Assistance in Complex Emergencies”
1999 年	“Evaluating Country Programmes: Vienna Workshop, 1999, Evaluation and Aid Effectiveness Series 2”
1999 年	“Results Based Management in the Development Co-operation Agencies: A Review of Experience, Executive Summary”

(出典：各種公開文書から三上作成。)

の確保が進む。ジェンダー視点からの評価結果を受けて、2006 年にはオーストラリアとデンマークが主導した “Evaluation Quality Standards” のドラフトが提示され、各国で各々の裁量で利用することになった (URL26：2)。試行期間を経て、その完成版は 2010 年に公表された (URL27)。その後、評価原則の見直しも進み、2019 年には整合性 (coherence) が追加された (URL28；URL29)。

合同評価のガイダンスも、実践の増加に従って整備されていく。2000 年には、アメリカが主導した調査の結果が公表された (URL30)。その後、合同評価の増加に対するフォローアップを行うことを DAC 評価会合は決定した。そして、2005 年にはデンマークによって主導された合同評価の報告書が公表された (URL31)。

この合同評価の報告書をガイダンスに加工する作業が進む。EvalNet の第 4 回会合では、事

図表 5 代表的なガイダンス的文書群（2000年代から2021年）

公表年	文書名
2000年	“Effective Practices in Conducting a Multi-Donor Evaluation, Evaluation and Aid Effectiveness Series 4”
2001年	“Evaluation Feedback for Effective Learning and Accountability, Evaluation and Aid Effectiveness Series 5”
2002年	“Glossary of Key Terms in Evaluation and Result Based Management, Evaluation and Aid Effectiveness Series 6”
2004年	“Lessons Learned on Donor Support to Decentralisation and Local Governance”
2004年	“Strengthening Evaluation Systems in Member Agencies”, Discussion Paper.
2005年	“Joint Evaluations: Recent Experiences, Lessons Learned and Options for the Future”
2005年	OECD, <i>Paris Declaration on Aid Effectiveness</i> .
2006年	“Evaluation Quality Standards”
2006年	“Guidance for Managing Joint Evaluations, DAC Evaluation Series”
2008年	“Guidance on Evaluating Conflict Prevention and Peacebuilding Activities: Working Draft for Application Period”
2009年	NONIE, <i>Impact Evaluations and Development: NONIE Guidance on Impact Evaluation</i> .
2010年	“Quality Standards for Development Evaluation, DAC Guidelines and Reference Series”
2010年	“Evaluating Development Co-operation: Summary of Key Norms and Standards, Second Edition”
2010年	<i>Evaluation in Development Agencies, Better Aid</i> .
2012年	<i>Evaluating Peacebuilding Activities in Settings of Conflict and Fragility: Improving Learning for Results</i> , DAC Guidelines and References Series.
2013年	<i>Evaluating Development Activities: 12 Lessons from DAC Peer Review</i> .
2016年	<i>Evaluation Systems in Development Co-operation, 2016 Review</i> .
2019年	“Better Criteria for Better Evaluation: Revised Evaluation Criteria Definitions and Principles for Use”
2021年	<i>Applying Evaluation Criteria Thoughtfully</i> .

（出典：各種公開文書から三上作成。）

務局が要約版のドラフトを作成した（URL32：2）。そして、2006年にはガイダンスとして公開された（URL33）。これに従って実施された大規模な合同評価がバリ宣言の評価である（URL34）。

また、個別分野に関するガイダンスの整備も進んだ。ルワンダの合同評価結果から派生した人道的支援の評価に関するガイダンスが1999年に公表された（URL35）。紛争予防・平和構築（Conflict Prevention and Peacebuilding 以下、CPPB）の評価についても、EvalNetと紛争と脆弱国際ネットワーク（International Network on Conflict And Fragility 以下、INCAF）前身組織との間で協働が進められた。そして、ノルウェー、イギリス、スウェーデン、事務局が主導して、2008年にはCPPBに関するドラフト版のガイダンスが作成された（URL36：URL37：7）。EvalNetのメンバーは、このドラフト版を使って南スーダンやコンゴ民主共和国、アフガニスタン、スリランカなどの評価を実践していく（URL6：34）。その際に生じた教訓を再びガイダンスに反

映することで、正式版が作成された（URL37）。

評価手法に関するガイダンスも作成されてきた。たとえば、DAC評価会合はNONIE（Network of Networks for Impact Evaluation）の一員として、インパクト評価のガイダンス作成にも関与した（URL38）。

3. DAC 評価会合の行政過程

3.1 評価会合のルーティン

前節までに概観した文書群はどのように作成されているのか。DAC評価会合における議論は、次のようなルーティンに従っている。まず、メンバーや事務局は、アジェンダに従って議論のための文書（discussion paper や room document など）を事前に準備し、報告を行う。各国や各機関が単独またはグループを作って、各々の議題を提案し、各々で行政リソースを負担して報告を行う。次に、その報告に基づいて

議論が交わされる。議論の中で興味を示したメンバーは、報告の担当者に連絡を行い、次回以降に業務の担当を引き受ける場合がある。最後に、次回にすべきこと（action）がアジェンダに組み込まれる。この反復を通じて、メンバー間で文書を互いに修正し、内容の充実と合意形成を図っていく。

会合では一度に複数の議題が同時並行で進行する。メンバーごとに担当する課題が異なっており、EvalNetでは複数のタスクチームが作られている。チームの単位で合同評価や協働が促進される仕組みである。その参加はメンバーの意思表示に基づく。たとえば、第4回会合ではインパクト評価について検討する非公式な集まり“network of networks”の創設が提案された。日本からはJBICが参加の意思を示していた（URL32:4）。これが後のNONIEになる。逆に、EvalNetのメンバーであっても議論に積極的ではない国もある。

以上のようなルーティンと自発的な活動様式の中で合同評価が進展する。そこから、援助評価のグループ化と評価連合（evaluation coalition）の形成が進むという動向が見えてくる。たとえば、COVID-19に対する合同評価を行うために、COVID-19グローバル評価連合（COVID-19 Global Evaluation Coalition）が形成された。そこでは、TECとパリ宣言の合同評価グループを手本とした連合が行われており、その端緒はカナダのグローバル連携省（Global Affairs Canada）とOECD事務局が2020年の春に行った議論がもとになっていた（URL39:6）。

オランダ、デンマーク、スウェーデンなどが援助評価のあり方に大きな影響を与えている理由のひとつは、評価の報告と文書の作成を積極的に行い、グループ化を進めてきた点にあると考えられる。

3.2 評価文書のフロー

本稿では、公表された文書群の整理を通じてDAC評価会合の歴史を概観してきた。それによって、評価文書のフローが見えてくる。まず、統合評価が各国の評価報告書から知見や教訓を抽出してきた点が重要である。次に、得られた知見は評価報告書にまとめられるのだが、より一般化するためにガイダンスへと加工される。

そして、ドラフト版を使って新たな評価を進め、文書の改訂によって実践経験を蓄積する。場合に応じては、複数のガイダンスを整理して新たなガイダンスの文書が作成される。評価報告書とガイダンスは評価の諸基準を方向付け、最終的に政策過程に影響を与える。

そのような文書のフローとして評価活動を考えたとき、次の3つの課題が生じる。第1に、他の国際的な評価担当組織との関係である。DAC評価会合においても世界銀行の独立評価グループ（Independent Evaluation Group 以下、IEG）や国連評価グループ（United Nations Evaluation Group 以下、UNEG）などが議論をリードする姿が見られた。ガイダンスは水平的な関係で作成されており、その関係を順に紐解いて整理する必要がある。また、COVID-19や気候変動に関する評価連合や、ALNAP（Active Learning Network for Accountability and Performance）のような国際的な評価グループの存在にも目を向ける必要がある。第2に、日本の国内行政における受容の検討である。そのためには、外務省やJICAの評価ポリシーが本稿で触れたガイダンス類をどのように操作化しているかを検討するのが有用だろう。第3に、各国、各組織間の評価システムの比較である。国際的なガイダンスの強制力が弱いのであれば、各メンバーが受容する際の裁量に差異が生じる。そこから受容のプロセスを比較できる。ただし逆に、国内行政の行動基準が国際行政に波及する場合も考慮に入れる必要がある。

以上のような課題の検討を通じて、国内行政と国際行政の相互影響を考慮に入れた比較政策評価論を展開する必要がある。

謝 辞

本稿は、2021年2月17日に2020年度同志社大学政策学会オンラインセミナーで行った報告でいただいた助言を反映した。

参考文献

日本語文献
行政管理研究センター調査研究部編（1993）『ODAの評価シス

テム—理論と国際比較』行政管理研究センター。

城山英明 (1997) 『国際行政の構造』東京大学出版会。

城山英明 (2007) 『国際援助行政』東京大学出版会。

西尾勝 (1990) 『行政学の基礎概念』東京大学出版会。

福田耕治 (1992) 『EC 行政構造と政策過程』成文堂。

福田耕治・坂根徹 (2020) 『国際行政の新展開—国連・EU と SDGs のグローバル・ガバナンス』法律文化社。

蠟山政道 (1928) 『国際政治と国際行政』巖松堂書店。

英語文献

Masujima, K. (2004) 'Good Governance' and the Development Assistance Committee: Ideas and Organizational Constraints. In M. Boås and D. McNeill(eds.) *Global Institutions and Development: Framing the World?, 153-163*, Routledge.

OECD (1986) *Methods and Procedures in Aid Evaluation*, OECD.

URL 等

1. DANIDA (2016) "Evaluation Policy for Danish Development Cooperation" デンマーク外務省ウェブサイト (<https://amg.um.dk/~media/amg/documents/tools/evaluation/evaluation%20policy%20for%20danish%20development%20cooperation2016.pdf?la=en>).

2. OECD (2006) "DAC in Dates: The History of OECD's Development Assistance Committee 2006 Edition" DAC ウェブサイト (<http://www.oecd.org/dac/1896808.pdf>).

3. 外務省 (2019) 「OECD 開発援助委員会 (DAC : Development Assistance Committee)」外務省ウェブサイト (https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/dac/dac_gaiyo.html).

4. OECD (1993) "A History of the DAC Expert Group on Aid Evaluation, Selected Issues in Aid Evaluation, 7" EvalNet ウェブサイト (40163156.pdf)。

5. OECD (1975) "AID Evaluation: The Experience of Members of the Development Assistance Committee and of International Organisations" (44100614.pdf)。

6. OECD (2013) "The DAC Network on Development Evaluation: 30 Years of Strengthening Learning in Development" EvalNet ウェブサイト (Eval%20history%20booklet%20web.pdf)。

7. OECD (1997) "Evaluation of Programs Promoting Participatory Development and Good Governance : Synthesis Report" EvalNet ウェブサイト (dcdndep/35019452.pdf)。

8. OECD (2004) "Lessons Learned on Donor Support to Decentralisation and Local Government, DAC Evaluation Series" EvalNet ウェブサイト (30395116.pdf)。

9. OECD (2003) "Review on Gender and Evaluation, Room Document No.1." EvalNet ウェブサイト (dcdndep/31736413.pdf)。

10. Chr. Michelsen Institute (1994) "Evaluation of the World Food Programme: Final Report" Norad ウェブサイト (https://www.norad.no/globalassets/import-2162015-80434-am/www.norad.no-ny/filarkiv/vedlegg-til-publikasjoner/historiske-evalueringsrapporter/w_f_p_maine_1994.pdf)。

11. Eriksson, J. (1996) "The International Response to Conflict and Genocide: Lessons from the Rwanda Experience: Synthesis Report" DEReC ウェブサイト (50189495.pdf)。

12. Clay, E., Dhiri, S., and Benson, C. (1996) "Joint Evaluation of European Union Programme Food Aid: Summary of Synthesis Report" ODI ウェブサイト (<https://cdn.odi.org/media/documents/7993.pdf>)。

13. OECD (2000) "Evaluation of European Aid Managed by the Commission, 1995-1999, Room Document No.3." EvalNet ウェブサイト (dcdndep/31967641.pdf)。

14. Netherlands Economic Institute (2000) "Evaluation Ghana Joint Evaluation of the Road Sub-Sector Programme 1996-2000" JICA ウェブサイト (https://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2000_GH-P12_4_f.pdf)。

15. Freeman, T., and Faure, S.D. (2003) *Local Solutions to Global Challenges: Towards Effective Partnership in Basic Education: Final Report*. Sida ウェブサイト (<https://cdn.sida.se/publications/files/sida61340en-local-solutions-to-global-challenges-towards-effective-partnership-in-basic-education.pdf>)。

16. IBRD (2003) *Toward Country-led Development: A Multi-Partner Evaluation of the Comprehensive Development Framework, Synthesis Report, World Bank*. 世界銀行ウェブサイト (<https://openknowledge.worldbank.org/bitstream/handle/10986/15080/271540PAPER0Country1led0synthesis.pdf>)。

17. European Centre for Development Policy Management (2007) *Evaluating Coordination, Complementarity and Coherence in EU Development Policy: A Synthesis*, Aksant Academic Publishers. ECDPM ウェブサイト (<https://ecdpm.org/wp-content/uploads/CCC-8-2007.pdf>)。

18. Borton, J., Buchanan-Smith, M., and Otto, R. (2005) *Support to Internally Displaced Persons: Learning from Evaluation*, Sida. ALNAP ウェブサイト (summary/support-to-internally-displaced-persons-learning-.pdf)。

19. Denmark Ministry of Foreign Affairs (2005) "A Joint Evaluation: Humanitarian and Reconstruction Assistance to Afghanistan 2001-05, A Joint Evaluation Main Report" OECD 国別ウェブサイト (<https://www.oecd.org/countries/afghanistan/35559322.pdf>)。

20. Telford, J., Cosgrave, J., and Houghton, R. (2006) "Joint Evaluation of the International Response to the Indian Ocean Tsunami: Synthesis Report" TEC ウェブサイト (<https://www.tsunami-evaluation.org/NR/rdonlyres/2E8A3262-0320-4656-BC81-EE0B46B54CAA/0/SynthRep.pdf>)。

21. OECD (1992) *Development Assistance Manual, DAC Principles for Effective Aid*, OECD. OECD iLibrary (development-assistance-manual-dac_g2gh14fb-en)。

22. OECD (1991) *DAC Principles for Evaluation of Development Assistance*, OECD. EvalNet ウェブサイト (2755284.pdf)。

23. OECD (2000) "Glossary of Evaluation and Results Based Management (RBM) Terms" OECD ウェブサイト (DCD/DAC/EV(2000)6)。

24. OECD (1999) "Results Based Management in the Development Co-operation Agencies: A Review of Experience, Executive Summary" OECD ウェブサイト (DCD/DAC/EV(2000)3)。
25. OECD (2002) "Glossary of Key Terms in Evaluation and Results Based Management, Evaluation and Aid Effectiveness Series 6" OECD iLibrary ウェブサイト (evaluation-and-aid-effectiveness-no-6-glossary-of-key-terms-in-evaluation-and-results-based-management-in-english-french-and-spanish_9789264034921-en-fr)。
26. OECD (2006) "Evaluation Quality Standards" OECD ウェブサイト (DCD/DAC/EV(2006)2)。
27. OECD (2010) "Quality Standards for Development Evaluation, DAC Guideline and Reference Series" EvalNet ウェブサイト (qualitystandards.pdf)。
28. OECD (2019) "Better Criteria for Better Evaluation Revised Evaluation Criteria Definitions and Principles for Use" EvalNet ウェブサイト (revised-evaluation-criteria-dec-2019.pdf)。
29. OECD (2021) *Applying Evaluation Criteria Thoughtfully*, OECD. OECD iLibrary (applying-evaluation-criteria-thoughtfully_543e84ed-en)。
30. OECD (2000) "Effective Practices in Conducting a Multi-Donor Evaluation, Evaluation and Aid Effectiveness Series 4" EvalNet ウェブサイト (2667318.pdf)。
31. OECD (2005) "Joint Evaluations: Recent Experiences, Lessons Learned and Options for the Future, DAC Evaluation Network Working Paper" EvalNet ウェブサイト (35353699.pdf)。
32. OECD (2006) "DAC Network on Development Evaluation Summary Record of the Fourth Meeting" EvalNet ウェブサイト (dcdndep/37590133.pdf)。
33. OECD (2006) "Guidance for Managing Joint Evaluations, DAC Evaluation Series" EvalNet ウェブサイト (37484787.pdf)。
34. Wood, B., Betts, J., Etta, F., Gayfer, J., Kabell, D., Ngwira, N., Sagasti, F., and Samaranyake, M. (2011) *The Evaluation of the Paris Declaration, Final Report*, Turbine Forlaget. DEReC ウェブサイト (dacnetwork/48152078.pdf)。
35. OECD (1999) "Guidance for Evaluating Humanitarian Assistance in Complex Emergencies, Evaluation and Aid Effectiveness Series 4" EvalNet ウェブサイト (2667294.pdf)。
36. OECD (2008) "Guidance on Evaluating Conflict Prevention and Peacebuilding Activities: Working Draft for Application Period" EvalNet ウェブサイト (dcdndep/39774573.pdf)。
37. OECD (2012) *Evaluating Peacebuilding Activities in Settings of Conflict and Fragility: Improving Learning for Results*, DAC Guidelines and References Series, OECD. INCAF ウェブサイト (<https://www.oecd.org/dac/conflict-fragility-resilience/publications/4312151e.pdf>)。
38. Leeuw, F. L., and Vaessen, J. (2009) *Impact Evaluations and Development: NONIE Guidance on Impact Evaluation*, Network of Networks on Impact Evaluation. EvalNet ウェブサイト (dcdndep/47466906.pdf)。
39. OECD (2021) "Summary Record of the 25th Meeting of the DAC Network on Development Evaluation" OECD ウェブサイト (DCD/DAC/EV/M(2020)1)。
- ※紙面の都合上、URL リストは本文中で言及した資料のみである。そのほか、資料の裏付けや図表作成等の参考文献として、EvalNet の全サマリー・レコード (2004 年から 2021 年) を始めとした各種公開文書を読み込み、利用した。いずれもインターネットで入手可能である。なお、最終閲覧日は 2021 年 11 月 26 日。
- ※ URL 表記の重複を避けるべく、一部は文書番号 (e.g. DCD/DAC/EV(2000) や XXX.pdf など) を記している。以下の文字列を文書番号の前方に付すと URL を復元できる。
- ① OECD ウェブサイト: "<https://www.oecd.org/officialdocuments/publicdisplaydocumentpdf/?docLanguage=En&cote=>"
 - ② OECD iLibrary: "<https://www.oecd-ilibrary.org/development/>"
 - ③ EvalNet ウェブサイト: "<https://www.oecd.org/dac/evaluation/>"
 - ④ DEReC ウェブサイト: "<https://www.oecd.org/derec/>"
 - ⑤ ALNAP ウェブサイト: "<https://www.alnap.org/system/files/content/resource/files/>"